

平成 25 年度

環境省 びんリユースシステム構築に向けた実証事業

奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶飲料普及促進事業  
やまとちゃ

平成 26 年

World Seed

## 目次

1.	基本方針	3
1.1.	背景と目的	3
1.2.	効果	3
2.	事業実施報告	3
2.1.	びんリユース推進協議会設立の背景	3
2.2.	びんリユース推進協議会設立に向けて	5
2.3.	びんリユース推進協議会設立準備会の設置	6
2.4.	本協議会の具体的内容	24
2.5.	インターネットを活用した広報媒体の構築	26
3.	びんリユース推進シンポジウム及びPRイベントでの情報発信	29
3.1.	PR イベントへの協力	39
4.	本事業における検討課題	42
5.	今後の展望	42
6.	全体総括	42

## 1. 基本方針

### 1.1 背景と目的

World Seed(以下、当団体)では、平成 24 年度より、リユースびん容器を用いた新商品であるリユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』(以下、本商品)を関連事業者とともに開発し、奈良県内を中心に「奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶飲料開発・販売事業」を行っている。

現在、奈良県奈良市及び生駒市において、市主催の公共施設内で開催される会議等で本商品の利用が開始され、本商品を以て市としての率先した環境配慮行動、当該地域の市民に対してびんリユースを通したリユースイメージの訴求を行っている。

しかしながら、奈良市及び生駒市以外での公共施設内での普及には至っていない。

本実証事業では、「大和びんリユース推進協議会(以下、本協議会)を設立し、本商品普及を通じた地域循環圏におけるびんリユースシステムの循環型社会形成への寄与及び地域経済への振興を参画団体とともに広く発信し、普及対象地域にある公共施設等でのさらなる普及を図る目的で「奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶飲料普及促進事業(以下、本事業)」を実施するものである。

また、本協議会設立にあたり、多様な団体を参画させ認識を深めることで、本商品以外のリユースびん入り商品の利用を図り、びんリユースシステムの拡大を目指す。

### 1.2 効果

- 1) 奈良市及び生駒市以外での奈良県内を中心とした公共施設及びホテル・旅館、飲食店等での普及が拡大する。
- 2) 本協議会を設立することにより、奈良県におけるびんリユースの推進体制が構築できる。

## 2. 事業実施報告

### 2.1 びんリユース推進協議会設立の背景

当団体では、平成 24 年度にて「奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶飲料開発・販売事業」を行った。これにより開発された本商品は、大和茶『と、わ(To WA)』と名付けられ、奈良県内を中心とする近畿圏内において普及促進を図っている。平成 24 年度事業においては、「普及可能なリユースびん商品の開発」、「びんリユースシステムの構築」を以て地域に根差したびんリユース推進の仕組みを整えとともに、公共施設内での会議等でリユースびん商品を導入することで視覚的にびんリユースをはじめとするリユースのイメージ訴求を行うねらいがあった。

平成 24 年度 1 月より奈良県奈良市並びに生駒市においては市として本商品の導入を表明し、市が主催するイベント及び公共施設内で開催される会議等において率先した利用を開始している。また本商品は奈良県特産の大和茶(日本茶)を使用しており、これにおいて地域経済振興にも一助であることから、ホテル・旅館・飲食店においても積極利用が開始されている状況にある。

平成 24 年度事業において地方公共団体がびんリユースに積極的な協力を行い、イベント及び会議等において率先した利用を開始していることが全国的にも先進的な事例であると当団体としては認

識しており、また現在の普及状況は以下の通りとなっている。

1) リユースびん入り大和茶『と、わ (To WA)』普及実績

・地方公共団体及び公的施設

奈良市・生駒市・公益財団法人奈良市生涯学習財団・生駒市立生涯学習施設

・ホテル・旅館

奈良県内を中心とする計 10 軒

・飲食店

奈良県内を中心とする計約 45 軒

平成 25 年度 2 月末実績

現在の本商品はホテル・旅館及び飲食店において普及店舗を拡大中である。また本商品普及の取組により以下の通り賞の受賞や取組紹介がなされている。

2) 賞の受賞経歴

・第 15 回 グリーン購入大賞(グリーン購入ネットワーク主催)

「優秀賞」受賞

本商品導入を通じた率先した環境配慮行動が高く評価され、生駒市が受賞した。



・3R 功労者等表彰(リデュース・リユース・リサイクル促進協議会主催)「会長賞」受賞

地域文化に根差したびんリユースによる地産地消ビジネスモデルの構築が評価され、当団体が受賞した。



3) 本事業の取組紹介

・一般財団法人 日本環境衛生センターが発行の月刊誌「生活と環境(10月号)」にて本事業が掲載。

・環境省発行「こども環境白書(2014年度版)」にて本事業が掲載。

その他においても本事業に関して主に環境関連媒体において紹介がなされている。

また、本商品では昨年平成 25 年 9 月 19 に開催された、中央環境審議会循環型社会部会容器包装の3R推進に関する小委員会及び産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクルワーキンググループ第1回合同会合の会議用飲料としてリユースびん商品が利用された。



以上のように関係各所の多大なる尽力のもと、奈良県をはじめ広く内外に向けて本事業及びびんリユースの発信を行っている。しかしながら、奈良県奈良市並びに生駒市と同様に他の地方公共団体に関して会議等でのリユースびん商品の導入には至っていない現状にあり、当団体としては第1章第1節に記載した通り、他の地方公共団体に対してびんリユースの理解を促し、特に奈良県内においては本商品の率先した利用を実現し、さらなるびんリユースシステム構築拡大を行うことで、全国への波及効果を高める必要があると考えた。

当団体では、平成 24 年度事業より出された上記の課題をもとに、これを解決する方策として、以下の取組を実施する必要があると考えた。

### 奈良県内に存在する多様な団体とびんリユースの認識を深め、奈良県内のびんリユースシステムの拡大を図る推進体制の構築

これにより、奈良県内におけるびんリユースの推進体制が構築され、特に地方公共団体におけるびんリユースに関する認識の深化及びリユースびん商品の導入促進が強化されると考えた。

## 2.2.びんリユース推進協議会設立に向けて

奈良県内におけるびんリユース推進協議会(以下、本協議会)の設立に向けて、以下の通りとした。

### 1)目的(ねらい)

奈良県内に存在する多様な団体とびんリユース推進を通して出される効果である「容器包装廃棄物の減量」、「温室効果ガス排出量の低減」また、本商品においては地域経済の振興にも寄与できる可能性を議論することにより、びんリユースの重要性の認識を深め、奈良県内をはじめとして広く内外に発信するとともに、当該地域のびんリユースシステムの構築と促進を図ることで、我が国の循環型社会形成に寄与するものとした。

### 2)参画対象

本協議会においては、当団体が普及している本商品(大和茶『と、わ(To WA)』により、地球環境負荷(容器包装廃棄物削減・温室効果ガス低減)だけでなく、地域経済の振興にも寄与できる可能性を検討し、推進するため、地元のまちづくり組織に関しても参画対象とした。

これにより参画対象は以下の通りである。

#### 【参画対象】

地方公共団体・地元まちづくり組織・市民団体・事業者・びんリユース推進組織・関係省庁

地方公共団体においては、本商品の導入を開始している、奈良県奈良市並びに生駒市を対象とした。

本協議会の参画にあたっては当団体より個別に提案を行い、参画の調整を行った。

#### 3) 達成目標

本協議会の設立にあたり、まずは奈良県内におけるびんリユースに関して議論できる「場」を設置することにより、互いにこの点において議論を行うことで、認識を深めること優先事項とした。また、びんリユースが地球環境負荷の低減に寄与できるだけでなく、地域経済の振興にも寄与できる可能性を議論することで、びんリユースの新たな展開を調査研究する機関としての機能を持たせることを大きな達成目標とした。

#### 2.3. びんリユース推進協議会設立準備会の設置

本協議会の設立にあたり、参画対象団体との設立準備会を設置し、本協議会を運営していく上でのとおりまとめを行った。また、当団体は本協議会の設立にあたり、事務局を担当した。

本節では、各設立準備会で議論された内容を以下の通り記載する。

設立準備会では、以下の日程で開催された。

#### 【開催日程】

- ・第一回協議会設立準備会：平成 25 年 10 月 18 日(木) 15 時～17 時
- ・第二回協議会設立準備会：平成 25 年 12 月 26 日(木) 15 時～17 時
- ・第三回協議会設立準備会：平成 26 年 1 月 28 日(火) 13 時～15 時 30 分
- ・第四回協議会設立準備会：平成 26 年 2 月 18 日(火) 13 時～15 時 30 分

上記協議会設立準備会は、奈良市が設置した起業支援施設で、(株)まちづくり奈良が運営している「きらっ都・奈良」で開催した。また同施設では、平成 24 年度に開発したリユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』を会議等で導入しており、本会合でもこれを使用した。



1) 第一回協議会設立準備会:平成 25 年 10 月 18 日(木)15 時~17 時

・開催場所:株式会社 まちづくり奈良 貸会議室

・参加団体:奈良県・奈良市・生駒市・NPO 法人 奈良ストップ温暖化の会(市民団体)・奈良市中心市街地活性化協議会(地元まちづくり組織)・びんリユース推進全国協議会(びんリユース推進組織)

#### 【議題と協議内容】

第一回協議会設立準備会では、第一回目の準備会合ということもあり、参加団体との情報交換と今後の方針を主たる協議事項とした。

#### ・協議会設立に関する趣旨説明

事務局である当団体より、本協議会を設立するにあたり、我が国におけるびんリユースの現状、奈良県内におけるびんリユースの取組の現状を報告し、その課題に関して奈良県内でのびんリユースをより推進するためには、推進体制を構築が必要不可欠な旨を伝えた。

また本協議会では、「びんリユース推進全国協議会」と連携しつつ、取組を行っていくことについて事務局より連絡した。

#### 【参画団体の自己紹介】

本議題では、本会合に出席している各参加団体からの自己紹介を行った。要旨は以下の通りである。

・特定非営利活動法人 奈良ストップ温暖化の会(奈良県地球温暖化防止活動推進センター)

2006 年より奈良県から温暖化防止活動推進センターの指定を受け、地球温暖化防止の活動団体の支援している。3R のリユース分野では、リユース食器の貸し出し、風呂敷等を回収して提供する団体との連携を図っている。また、奈良県とレジ袋の有料化、削減の取組も行っている。

・生駒市 環境経済部 環境政策課

当市では、環境マネジメントシステムを導入しており、各課の取組事項においてペットボトル飲料を使用せず、可能な限り、リユースびん商品を利用することとしている。今年度ではグリーン購入ネットワークが主催している「第 15 回 グリーン購入大賞」において「優秀賞」を受賞した。

・奈良市 環境部 環境政策課

World Seed からリユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』の提案があり、当市内において奈良県特産の大和茶を生産していることもあり、同商品の導入を行った。

・奈良県 暮らし創造部 景観・環境局 環境政策課

県としては3R 及び2R を推進しており、また CO の削減ではあれば、温暖化対策にもびんリユースは資する部分があり、今後県としてどういう取組ができるのか、どういう協力ができるのか、どういう意見を言えばいいのか、意見、情報交換ができればと考えている。

・奈良市中心市街地活性化協議会

当協議会では、奈良市における中心市街地の活性化と起業家支援事業を中心に行っている。本

協議会に関しては地域経済の振興という観点から協力することができればと考えている。

・びんリユース推進全国協議会

当協議会は2年前に設立され、多様な団体に参加していただいている。当団体では、全国を6ブロックに分け、びんリユースの取組を推進していきたいと考えている。ようやく全国の地域で地域協議会が立ち上がりつつあり、本協議会に関しても協力をしていきたい。

【本事業における現状報告と課題】

本事業における現状報告では、当団体が平成24年度事業にて開発したリユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』の取組内容を現状の課題について報告を行った。

以後、各参加団体より、びんリユースの情報交換を下記要旨の通り行った。

・学校給食における牛乳びん利用率について

全国的に利用率が減少傾向にあり、酪農が盛んな地域においても利用率が著しく低い地域も存在する。奈良県については、農林水産省の資料より、学校牛乳びんの利用率は64.1%となっているが、最大人口の奈良市については、ほぼ紙パックの利用であることから、奈良県における学校牛乳びん利用率については、再度調査する必要がある。

・リユースびん商品の会議等利用における課題

奈良市並びに生駒市の会議等で利用しているリユースびん商品は「大和茶『と、わ(To WA)』」であるが、王冠形式のため、利便性に欠ける。この点において利用拡大の妨げになっていることは否めない。今後の方策として、スクリューキャップ形式のリユースびん商品の提供ができないか。しかしながら、リユースびん商品のスクリューキャップ形式の容器はびん口が欠けやすく、検品をするにも、大きな設備投資が必要なことから、現在の状況では可能性として低い。代替案として、栄養ドリンクに使用されているマキシキャップ形式を検討しているが、こちらについても大きな設備投資が必要であること、また茶飲料に適したマキシキャップが日本に存在しないことから、現在の状況では適用が難しい状況にある。現在はびんリユースの意義を広く発信し、認識を深めることで、王冠形式に理解を深めることが必要である。同時に奈良県内でのびんリユースの取組をより広く発信し、県内の公共施設におけるリユースびん商品の導入を拡大することで、社会的認知をさせることで、マキシキャップ形式の開発機運を高めることができれば可能性が出てくるのではないかと考える。

・リユースびん商品を普及していく上で

主に奈良県内で普及を行っている「大和茶『と、わ(To WA)』」は本来の大和茶の味が完全に出されていないと思う。リユースびん商品を普及していく上で一番重要なのは消費者が「おいしい」と感じてくれることであり、おろそかにしてはいけない。「大和茶『と、わ(To WA)』」についても製造メーカーに対して品質の向上を打診する必要がある。

【本協議会設立に関する参画団体の検討】

本協議会における事業者の参画対象について、第一回設立準備会参加団体との協議を行った。協議内容要旨は以下の通りである。



- ・参画対象の的を絞り、呼びかける必要があると考える。特に奈良県内でのびんリユースの取組に関しては、地域(まち)との連携が今後必要になっていくと認識しており、当該地域で活動している地域活動団体である、奈良商工会議所や奈良青年会議所に呼びかけをしてはどうかと考える。また、大和茶『と、わ(To WA)』の分野で言えば、奈良県のホテル・旅館組合・製造メーカー・流通メーカーの参画を呼びかける必要があると考える。併せて奈良県全体のびんリユースを推進するためには、奈良県の酒造組合に参画が必要不可欠ではないか。
- ・消費者からのびんリユースに関する意見も必要である。従って消費者団体の参画も必要ではないか。

#### 【今後のスケジュールの確認】

本協議会設立に向けて今後のスケジュールは以下の通りとなった。

- ・本協議会の設立に向けて事務局より、設立準備会をあと3回開催したいと考えている。時期としては12月、1月、2月として設立総会を開催したいと考えている。

#### 【第二回協議会設立準備会合の日程調整】

第二回協議会設立準備会は、12月26日(木)に開催することになった。

#### 【その他】

本会合では、議題の他以下の事項を協議した。以下の通りその要旨を記載する。

- ・びんリユースにおけるリユースの環境教育について

びんリユースを社会により浸透していくこと、また若い世代にびんリユースの重要性を発信し、理解を深めるために、学校給食における牛乳瓶の利用について、検討を進めていく必要があると考える。びんリユース推進全国協議会では、地球環境基金の助成を受けて2Rの副読本を作成している。

- ・びんリユースにおける地域活性化との連携

リユースびん商品をより広く普及し、市民生活レベルで利用していくためには、デポジットを活用したインセンティブが発生する仕組みを作ることが必要ではないか。リユースびん商品の空きびん回収率を維持するために、例えば空きびんを返却する際に現金を返却するのではなく、ポイント制にして、そのポイントを他商品購入に使えるような仕組みを作ることにはできないか。奈良においても大手鉄道会社や、地方銀行も立地しているので、今後の検討事項として進めていく必要がある。

- ・経済産業省及び農林水産省との連携

特に奈良県のびんリユースの取組に関しては、地域経済の振興への寄与もあり、その観点で広く連携を作っていくことも必要であると考えます。

#### 【第一回協議会設立準備会合のまとめ】

第一回協議会設立準備会においては、参加団体より積極的な奈良県におけるびんリユースに関する意見交換が見られた。特に本会合においてはびんリユースを普及していく上での課題点及び地

域との連携を図る必要性が協議された。

2) 第二回協議会設立準備会合:平成 25 年 12 月 26 日(木)15 時~17 時

・開催場所:株式会社 まちづくり奈良 貸会議室

・参加団地:奈良県・奈良市・生駒市・特定非営利活動法人 奈良ストップ温暖化の会・奈良市中心市街地活性化協議会・びんリユース推進全国協議会・環境省 きんき環境館・ガラスびんリサイクル促進協議会(オブザーバー)・三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社(オブザーバー)

議題と協議内容

【本協議会名称について】

事務局より本協議会の名称について、以下の通り提案を行った。

・協議会名称:奈良県びんリユース推進協議会

参加団体より、奈良県という文言を名称とすると県全体でびんリユースの取組を実施しているという印象を植え付けてしまう可能性があり望ましくないという意見が出された。

本協議会名称について、各参加団体より以下名称の提案がなされた。

・名称候補案

大和びんリユース推進協議会

やまとびんリユース推進協議会

やまと瓶リユース推進協議会

びんリユース推進協議会・やまと

上記 4 つの名称候補より、本協議会事務局の方で再度検討を行うこととした。

【本協議会取り組み方針について】

第一回協議会設立準備会合の協議会内容をもとに、事務局より具体的方針案を提案した。提案事項と協議内容は以下の通りである。

びんリユースによる地域振興(まちづくり)の認識共有及びその発信と取り組みの実施

本協議会では、地域に根差したびんリユースとして、地域循環圏を軸としたびんリユースにより、地球環境負荷の低減はもとより、地域振興(まちづくり)への寄与に関して参画団体とともに、認識を共有、また内外への発信を行うとともに自らも取り組みを実施する。

各参加団体より、上記の取組方針については、現在のところ、承認は難しいとの意見がなされた。びんリユースを奈良県内で推進していく上で、まずは、びんリユースより容器包装廃棄物の削減、温室効果ガスの低減による地球環境負荷の低減を参加団体内にて認識を共有することが重要であり、びんリユースによる地域振興(まちづくり)に関しての取組実施は現段階では認識の共有ができておらず、従って取組の実施は難しい。

本協議会事務局より、びんリユースによる地球環境負荷の低減を前提として、本会合での意見を取りまとめ、改めて参画団体との個別協議を実施することにした。

### 地域におけるリユース促進のための環境教育手法の検討

特に学校牛乳によるリユースびんの活用を念頭に検討し、これにおいてリユースの重要性を、将来を担う世代に発信し、環境教育を実施する。

びんリユースによる環境教育の実施に関して、具体的環境教育手法の検討がなされていない状況で実施することは困難である。現段階では、奈良県内における学校給食における学校牛乳びんの利用に関して情報を集め、利用率の観点より現状を把握することが先決であるとの認識がなされた。

本協議会事務局より の取組方針については保留とし、改めて各参画団体と協議することとした。

本会合における議題2)に関しては、この他、参加団体より以下の意見がなされた。

・本協議会への参画意義はどこになるのか、改めて説明を求める。特にびんリユースを奈良県内で推進する上で、当団体の参画がなぜ必要になるのかその理由を聞かせてほしい。

・事務局よりの返答

特に地方公共団体に関しては、奈良県内でびんリユースの取組を推進して行く上で必要不可欠な存在である。奈良県内でのびんリユースの取組については、公共施設における会議等でのリユースびん商品の利用により、地方公共団体の率先した環境配慮行動を促すとともに、当該地域の地域住民に対してリユースイメージを視覚的に訴求することに重きを置いているため、この点において本協議会として地方公共団体の参画を求めるものである。

・各参画団体の役割を明確に説明してほしい。

・事務局よりの返答

各参画団体の本協議会における役割については、今後の協議の中で決定していきたいと考えており、改めて事務局より各参画団体と個別協議を行う。

・本協議会を運営していく上で、運営体制の構築はどのようになっているのか。特に設立趣意書・会則等の事務局よりの提案を求める。

・事務局よりの返答

現在、事務局の方で案を作成中であり、改めて提案を行う。

【本協議会座長候補の選出について】

本協議会の座長候補として、事務局より以下の者を推薦した。

・座長候補:奈良県立大学 地域創造学部 学部長 教授 西田 正憲(にしだ まさのり)氏

同氏においては、環境省出身であり、幅広く環境の分野で専門的見地があることから、推進した。

本会合において座長候補の承認を得、第三回協議会準備会より座長にお越しいただくことになった。

【シンポジウム及びPR イベント開催概要についての説明】

本年度において、環境省びんリユース推進シンポジウムとPRイベントを開催するにあたり、奈良県にて開催する運びとなった。これに関して本協議会として協力をしたい旨を事務局より説明した。

各参加団体からの意見は以下の通りである。

- ・本協議会の設立が準備段階の時期に同シンポジウム及びPRイベントに関して、どのレベルで協力できるか判断が難しい。同シンポジウム及びPRイベントを開催するにあたり、広報的な分野での協力の可能性はある。

環境省びんリユース推進シンポジウム及びPRイベントに関しては第3章に記載する。

#### 【事業者組合参画候補進捗状況について】

本協議会における事業者への参画打診について事務局より以下の通り報告をした。

- ・奈良市地球温暖化対策地域協議会(奈良市と連携して打診中)
- ・一般社団法人 奈良青年会議所(既に合意済み)
- ・奈良県商工会議所連合会(株桶谷経由で調整中)
- ・奈良県酒造組合(株桶谷経由で調整中)
- ・奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合(事務局にて打診中)

#### 【その他報告事項】

その他報告事項として以下の事項を報告した。

- ・10月29日(火):リデュース・リユース・リサイクル推進協議会主催「3R 推進功労者等表彰」の表彰式が東京のKKR ホテルで開催され、World Seedが会長賞を受賞した。
- ・11月:環境省発行「こども環境白書」に大和茶『と、わ(To WA)』の取り組みが紹介された。
- ・11月28日(木):東海地域びんリユース推進シンポジウムにWorld Seedが先進事例紹介として登壇した。
- ・12月12日(木):ガラスびんリサイクル促進協議会発効の「びんの3R通信」に大和茶『と、わ(To WA)』の取り組みが紹介された。
- ・12月13日(金):グリーン購入ネットワーク主催「グリーン購入大賞」の表彰式が東京ビッグサイト、エコプロダクツ2013内にて開催され、生駒市が優秀賞を受賞した。

#### 【第三回協議会設立準備会の開催日程】

第三回協議会設立準備会の開催日程は、平成26年1月28日(火)13時~15時30分となった。

#### 【第二回協議会設立準備会のまとめ】

第二回協議会設立準備会では、地方公共団体より本協議会への参画意義を明確にしてほしいとの意見が出された。特に当該団体が公益性を重要視する上で、びんリユースを推進する協議会に参画する意義を改めて協議する必要性が出された。この意見に関しては本協議会の事務局を担当するWorld Seedにおいて、各地方公共団体と個別で協議を行うこととした。

本協議会における方針に関しては、びんリユースにおける地域経済振興への寄与だけでなく、地球環境負荷低減を前提として位置付け、方針を決定する必要があるとの認識がなされた。

本協議会の運営体制に関しては、会則の策定を行い、取り決めをしていくこととした。

#### 【個別協議】

本会合の以後、事務局では各参画団体と以下の日程で個別協議を行った。

- ・12月27日(金)10時～11時:奈良市 環境部 環境政策課
- ・12月27日(金)13時～14時:生駒市 環境経済部 環境政策課
- ・1月8日(水)13時～15時:生駒市 環境経済部 環境政策課
- ・1月8日(水)16時～19時:奈良県 暮らし創造部 景観・環境局 環境政策課
- ・1月9日(木)13時～14時30分:奈良市中心市街地活性化協議会
- ・1月10日(金)13時～16時:奈良市 環境部 環境政策課
- ・1月14日(火)16時30分～18時:特定非営利活動法人 奈良ストップ温暖化の会(奈良県地球暖化防止活動推進センター)

以上の参画団体と協議を行い、第二回協議会設立準備会にて出された意見を以下の通り取りまとめた。

#### ・本協議会参画における地方公共団体の意義

地方公共団体において、奈良市並びに生駒市においては、平成24年度よりイベント・会議等においてリユースびん商品の導入を実施しており、この取組を本協議会内にてより広く認識を深め、発信することで、奈良県内の他の地方公共団体でもリユースびん商品の導入を実現するため、本協議会に参画をするものとした。またびんリユースは両市の3R行動のリユース推進行動に即したものであり、これにおいて協力をするものである。

また、奈良県に関しては、協議の結果、現在のところ県内のびんリユースの現状を把握するに至っておらず、県としてびんリユースのどの分野で協力できるか不透明なところがあり、正式な参加ではなく、オブザーバー参加により、必要な時期に参加することとした。

#### ・本協議会の取組方針について

第二回設立準備会にて事務局より提案された方針を変更し、地域経済振興への寄与については、本協議会においてその可能性を調査検討するものとした。びんリユースに関しては、それを推進することによる地球環境負荷の低減に関して認識を共有し発信することが重要であるとの結果に至った。個別協議の結果を踏まえて、事務局の方で設立趣意書の策定を行い、第三回協議会設立準備会において提案を行うこととした。

#### ・各参画団体の役割と運営体制について

事務局より各参画団体に、以下のように提案を行った。本協議会の参画団体は「構成員」とし、構成員の中から役員を選出し、本協議会の運営を行うこととした。また、運営体制に関しては会則を

策定し、第三回協議会設立準備会にて改めて提案を行うこととした。

3) 第三回協議会設立準備会合:平成 26 年 1 月 28 日(火)13 時~15 時 30 分

- ・開催場所:株式会社 まちづくり奈良 貸会議室
- ・座長:西田 正憲 氏(奈良県立大学 地域創造学部 学部長 教授)
- ・参加団体:奈良市・生駒市・特定非営利活動法人 奈良ストップ温暖化の会(奈良県地球温暖化防止活動推進センター)・奈良市中心市街地活性化協議会・びんリユース推進全国協議会・奈良県くらし創造部景観・環境局環境政策課(オブザーバー)・三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社(オブザーバー)・

#### 議題と協議事項

##### 【本協議会座長よりご挨拶】

第三回協議会設立準備会より、前回の設立準備会にて承認を得た西田座長より以下のように挨拶を行った。

- ・環境庁にて自然環境行政に携わっていた。体調を崩したこともあり、大学にて教官を務めている。景観論が一番の専門であるが、大学では環境学全般を扱っている。中島氏より、循環型社会形成に向けて重要な取り組みと認識し、お引き受けしたところ。地域資源の掘り起こしというところもあり、地域で名物になり、地域のブランドになるということで、その点でも地域活性化・まちづくりという観点からも、重要であろうと考えている。地球環境問題というのは、目に見える成果・形がないとなかなか効果が実感しにくい分野でもあると認識しているが、その点においてびんリユースが地域に溶け込むことでより効果を視覚化できると考えている。これからどうぞよろしくお願い致したい。

##### 【本協議会名称の提案と承認】

事務局より本協議会の名称について以下の通り提案を行った。

- ・本協議会名称:「やまとびんリユース推進協議会」  
参加団体よりひらがな表記にすると「やまとびん」で一つの名詞になってしまう可能性があるため、以下の名称の提案が行われ、承認された。
- ・本協議会名称「<sup>やまと</sup>大和びんリユース推進協議会」

##### 【本協議会設立趣意書案及び会則案、名簿案の提案と検討】

第二回協議会設立準備会及び各参画団体との個別協議より、事務局から提案を行った。協議結果要旨は以下の通りである。

- ・設立趣意書について  
事務局より以下の案にて提案を行った。

## 設立趣旨

### (びんのリユースの現状)

ガラスびんは飲料、酒類及び食品を始めとしてさまざまな用途で利用される品質保持性能に優れた容器であり、耐久性が高く再使用が可能な容器であることから容器包装廃棄物の排出抑制と温室効果ガス排出量の低減、循環型社会形成の観点からそのリユースの推進が期待されている。

我が国では「第四次環境基本計画(平成 24 年閣議決定)」、「第三次循環型社会形成推進基本計画(平成 25 年 5 月閣議決定)」において、2R(リデュース・リユース)の推進が明記され、とりわけリユース分野では「リターナブルびん(リユースびん)の普及促進の必要性が認識されている。

また、我が国では「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」を開催しており、平成 24 年度に開催された「びんリユース推進シンポジウム(平成 24 年度 2 月 18 日宮城県にて開催)」においても我が国のびんリユースにおいては、自立かつ継続した事業の実施が必要であり、地域循環圏( 1)を軸にした地域経済にも貢献できるものとして多様な主体とともに認識を深めていく必要があるとされている。

しかしながら、ライフスタイルの変化、流通構造の変化、商品の多品種化等を始めとする経済社会システムの変化の影響を受け、びんのリユース量は減少の一途をたどっている。

### (びんのリユースは様々な主体が連携しないと成立しないシステム)

現状では、ビールびん、一升びん、牛乳びん等の既存のリユースシステムが弱体化しており、びんのリユースが存続しているのは業務用市場、宅配市場等のクローズドシステムに頼るところが大きい。

びんリユースシステムは、消費者、中身充填事業者、卸事業者、飲食店等びん飲料を提供する事業者、小売店、地方公共団体、NPO 団体(市民団体)、さらにびん商、回収容器供給者(P 箱)、ガラスびんメーカー等の様々な主体が協力・連携しないと成立・存続し得ないものであり、従来我が国では、これをひとつの「文化」として、存続・発展してきた。

しかしながら、このびんリユースシステムは現状のままでは崩壊しかねず、ひとたび崩壊するとその再生・復活には多大な時間と労力が必要となり、我が国が目指す循環型社会形成に大きな損失となる。

### (びんリユース拡大のための鍵)

これまでびんリユースの普及拡大に向けて様々な調査研究、実証実験等が行われてきたが、その結果からびんリユースの拡大のための鍵として見えてきたのは「地域単位のびんリユースシステムの構築」である。

具体的には、回収や洗びん、充填の設備等のコスト制約の中で、一定程度の広さをもった地域をベースとしてびんをリユースしていくシステムを構築し、点から線、線から面へ拡大していくことが有効である。

この取組を成功に導くためには、消費者、中身充填事業者、卸事業者、飲食店等びん飲料を提供

する事業者、小売店、地方公共団体、NPO 団体(市民団体)びん商、回収容器供給者(P箱)、ガラスびんメーカー等の参加が得られる着眼点と発想に基づくものとなる必要がある。

そして、消費者がびんリユースの重要性を認識し、それを受け入れるための情報発信と地域単位での取組実施が必要であり、消費者の行動概念を変化させることが求められる。

(本協議会が目指す地域単位でのびんリユース)

本協議会を設置する当該地域では、既に平成 24 年度より NPO 団体「World Seed」が開発した「リユースびん入り大和茶<sup>®</sup>と、わ(To WA)」(以下、本商品)という奈良県特産の大和茶(やまとちゃ)を使用したリユースびん入り商品が開発・普及されており、奈良県内を中心とするホテル・旅館、飲食で消費者への提供がなされている。また、地方公共団体においてもリユースびん入り商品において「奈良市」並びに「生駒市」が全国で初めて市として導入を表明し、公共施設内で開催される会議等を使用することにより、市として率先した環境配慮行動、当該地域市民へリユースの視覚的イメージの訴求が実現している。

本協議会では、本商品の取り組み事例をもとに、当該地域における“地域単位でのびんリユース”をさらに推進していく上で、課題となる点やその解決方法等を多様な主体とともに議論し、情報を共有し、その認識を深め、必要な取り組みを実施することにより、“誰もが、びんリユースの重要性を認識し、生活行動(消費行動)のひとつにこれが組み込まれる”ことを将来像として目指すものである。

1:地域の特性や循環資源の性質に応じて、最適な規模の循環を形成することが重要であり、地域で循環可能な資源はなるべく地域で循環させ、地域での循環が困難なものについては循環の環を広域化させることにより、重層的な循環型の地域づくりを進めていくという考え方。

(第三次循環型社会形成推進基本計画第 2 章第 2 節第 13 項より抜粋)

参加団体より趣意書については、本協議会が設立されてから長く残るものであり、専門的な文言よりも広く多くの人に理解できる文言にした方が良いとの意見がなされた。特に 3R の推進から 2R への推進に移行する重要性、地域循環圏及びクローズドシステムの文言を変更しより広く理解できるように変更することとした。

設立趣意書案については、各参加団体からの意見を踏まえ、事務局で修正することとした。

・会則について

事務局より以下の通り提案を行った。

[名称]

第 1 条 この会の名称は、「やまとびんリユース推進協議会」(以下「本協議会」という。)とする。

[目的]

第 2 条 本協議会は、奈良県内において、びんリユースの推進が容器包装廃棄物の排出抑制、温



室効果ガス排出量の低減、地域経済の振興等に貢献できる可能性を広く内外に発信するとともに、自らもびんリユースを推進する取り組みを実施し、もって我が国の循環型社会形成に寄与するものである。

#### [取組内容等]

第3条 前条の目的を達成するために次の取り組みを行う。

- (1) 当該地域において既に実施されているびんリユースの取り組みを基に、その「経験知」と「知識知」の蓄積を行い、さらなるびんリユースシステムの構築と拡大を図る。
- (2) びんリユースにおける、容器包装廃棄物の排出抑制と温室効果ガス排出量の低減、循環型社会形成への寄与の情報発信や広報。
- (3) びんリユース促進における環境教育手法の検討。
- (4) びんリユースにおける地域経済への貢献調査と検討。
- (5) その他座長が必要と判断する取り組み。

#### [協議会の構成]

第4条 本協議会は、第2条に掲げる目的に賛同する構成員で構成する。

- (1) 必要に応じ、構成員以外の者をオブザーバーとして参加させることができる。
- (2) 構成員は、本協議会が開催する会議等に出席できない時、代理の者を指名して参加させることができる。

#### [役員]

第5条 本協議会に次の役員を置く。

- (1) 座長 1名
  - (2) 副座長 1名
  - (3) 会計 1名
  - (4) 幹事 若干名(座長、副座長、会計を含む。)
  - (5) 会計監査 1名
- 2 座長は、本会を代表し業務を統括する。
  - 3 副座長は、座長を補佐し、座長が事故あるときはその職務を代理する。
  - 4 会計は、本協議会の会計を管理する。
  - 5 幹事は、協議会の運営に当たる。
  - 6 会計監査は、本協議会の会計事務を監査する。

#### [役員任期・報酬]

第6条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 役員は無報酬とする。

[役員を選出]

第7条 本協議会の役員は、構成員の互選により総会において選出する。

2 座長、副座長、会計については、役員を選出後、幹事の互選により総会において承認を得る。

[会の組織]

第8条 本協議会の運営のために、総会と幹事会を置く。

[総会]

第9条 総会は構成員を以て構成する。

2 総会は、座長が招集し、毎事業年度ごとに1回開催する。

3 総会は、2分の1以上の構成員の出席(委任状を含む。)で成立する。

4 総会の議事は出席構成員の過半数をもって決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。

5 やむを得ない事情のため総会に出席できない構成員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決することができる。

6 必要に応じて、臨時総会を開催できる。

[総会の議決事項]

第10条 総会は次に掲げる事項について議決する。

(1) 会則の制定または改廃に関すること。

(2) 役員を選出に関すること。

(3) 予算及び決算に関すること。

(4) 事業計画及び事業報告に関すること。

(5) 前各号に掲げるもののほか、協議会の運営に関すること。

[幹事会]

第11条 幹事会は、総会に次ぐ意思決定機関とし、第3条に定めた事業の運営と執行に当たる。

2 必要に応じ随時開催する。

[会の運営費]

第12条 会の運営費は、幹事会が別に定めるところより、これを決定する。

[会計年度]

第14条 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

[入会]

第 15 条 本協議会に入会を希望する者は、別に定める入会申込書を座長に提出するものとする。

[退会]

第 16 条 本協議会を退会しようとする者は、別に定める退会届を座長に提出するものとする。

[事務局]

第 17 条 本協議会の事務を処理するため、事務局を「World Seed(大阪府八尾市本町 1-5-10 本町プラザ 301 号)に置く。

[解散]

第 18 条 本協議会は、総会で構成員総数の4分の3以上の承認を得た決議により解散する。

[その他]

第 19 条 本会則に定めるものの他、本会に関して必要な事項は、幹事会に諮り、総会で議決する。

附則

本会則は、平成 26 年 月 日から施行する。

附則

本協議会の設立当初の役員は、第 5 条の規定にかかわらず、幹事会の定めるところとし、その任期は、第 6 条の規定にかかわらず、平成 27 年 3 月 31 日までとする。

各参加団体より、意見が出された。

・役員候補について

役員については多すぎるという意見から、本協議会役員については、以下の通りとなった。

座長

事務局長(会計兼任)

幹事

会計監査

・事務局所在地について

本協議会事務局所在地については、奈良県内に置くことになった。

・総会開催頻度について

総会の開催は年に 1 回以上とすることになった。

・構成員名簿について

事務局より以下の通り提案を行った。

(敬称略、順不同)		(平成 26 年 1 月 26 日現在)
役職等	氏名	所属等
座長	西田 正憲	奈良県立大学 地域創造学部 学部長 教授
幹事	中島 光	World Seed 副代表理事
幹事	新井 哲彰	奈良市 環境部 環境政策課 課長
幹事	岡田 敏幸	生駒市 環境経済部 環境政策課 課長
幹事	遊津 隆義	奈良県地球温暖化防止活動推進センター センター長
幹事	北浦 由香	特定非営利活動法人 奈良ストップ温暖化の会 副理事長
構成員	小沢 一郎	びんリユース推進全国協議会 事務局長
構成員	石丸 元太郎	奈良市中心市街地活性化協議会 主事
構成員	(担当者検討中)	一般社団法人 奈良青年会議所
構成員	(担当者検討中)	株式会社 桶谷
構成員	(担当者検討中)	奈良市地球温暖化対策地域協議会
構成員	(調整中)	奈良県酒造組合
オブザーバー	芳川 一宏	奈良県 暮らし創造部 景観・環境局 環境政策課 環境企画係 係長
オブザーバー	上野 浩文	環境省 きんき環境館
オブザーバー	岩田 浩幸	環境省 近畿地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課 廃棄物対策等調査官
オブザーバー	幸 智道	ガラスびんリサイクル促進協議会 事務局長
オブザーバー	加山 俊也	三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 環境・エネルギー部 主任研究員

各参加団体より以下の意見が出された。

- ・名簿にオブザーバーは記載する必要がないので削除する。
  - ・地方公共団体において、温暖化対策部署の担当者に偏っていると見受けられる。廃棄物関係部署の担当者も今後本協議会に参加を呼びかける必要があると考える。
  - ・幹事については行政関係に偏ってしまっている。地元まちづくり組織も幹事になってもらう必要があるのではないか。特に奈良青年会議所についてその打診をしてはどうか。
  - ・事業者については、奈良県のホテル・旅館組合やJAにも打診をしてはどうかと考える。
- 以上に意見を踏まえ、継続して事務局の方で調整することになった。

#### 【シンポジウム開催について】

環境省びんリユース推進シンポジウムについて、本協議会として情報発信の観点で広報協力をすることが合意された。

#### ・具体的広報手段

奈良市並びに生駒市においては、本シンポジウムの共催とし、奈良県が後援とすることになった。・また共催である奈良市並びに生駒市については、両市の市制だよりにおいて広報を実施することとする。

#### 【事業者組合参画候補進捗状況について】

事務局より以下の通り報告を行った。

- ・奈良県酒造組合については、1月29日(水)に提案を行う。
- ・他参画について、担当者検討中の団体については、随時調整を行う。

#### 【その他報告事項】

#### ・アースデイ奈良での出展について

特定非営利活動法人 奈良ストップ温暖化の会より、4月20日(日)に開催される「アースデイ奈良 2014」にて本協議会として出展してはどうかという提案があり、本協議会として出展する方向で調整することになった。

#### 【第四回協議会設立準備会合開催日程について】

次回の設立準備会は2月18日(火)13時～15時に開催することとなった。

#### 【第三回協議会設立準備会のまとめ】

本会合により、本協議会の取組方針及び運営体制について大きく前進することができた。また、本協議会の取組内容において、会則案第3条に「びんリユースにおける地域経済への貢献調査と検討」という文言が明記された。

#### 4) 第四回協議会設立準備会:平成26年2月18日(火)13時～15時

- ・開催場所:株式会社 まちづくり奈良 貸会議室
- ・座長:西田 正憲 氏(奈良県立大学 地域創造学部 学部長 教授)
- ・参加団体:奈良市・生駒市・特定非営利活動法人 奈良ストップ温暖化の会(奈良県地球温暖化防止活動推進センター)・奈良市中心市街地活性化協議会・びんリユース推進全国協議会・三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社(オブザーバー)

#### 議題及び協議事項

#### 【本協議会設立趣意書案の提案と承認】

- ・事務局より、前回の案からの修正点を説明。
  - ・概ね良いと思われるが、廃棄物の削減について、もう少し触れた方が良いのではないかとこの意見に対して、容器包装の削減、環境負荷低減といった点で触れている旨を説明。
- 以上を踏まえて、参加団体から異議なく、本協議会設立趣意書案は承認された。

#### 【本協議会会則案の提案と承認】

- ・事務局より、前回の案からの修正点を説明。平成 26 年 4 月 1 日から本会則を施行したい。
- ・会則第 9 条第 2 項に、事業年度ごとに 1 回開催とあるが、事業年度の定義の記載はない。会計年度と同一ということでよいかとの質問に対して、会計年度と同様にしたい旨を事務局より説明する。
- ・数字について、半角・全角が混同されているので統一をもって修正をとの意見。
- ・以上を踏まえて、参加者から異議なく、本協議会会則案は承認された。

補足：本協議会運営費について

- ・奈良市や生駒市から、平成 27 年度から会費のようなことが想定できるか。桶谷、奈良県酒造組合などの事業者に協力をお願いすることも想定し、今後事業者側と調整を行い、平成 27 年度までに運営費の調達をどのようにするか検討し、決定する。
- ・事業費としては、会場費、印刷費を想定している。
- ・本協議会の中で、参画団体とともに協議を行い、取り組みを実施する上で、必要経費が発生した場合は、その段階において調達方法を検討し、決定する。

補足：本協議会運営費調達方法について

- ・奈良市からの提案として市のイベント等があるので、そこでリユースびん入り商品を買っていけば、ある程度売上が確保でき、本協議会の運営費に充てられると想定される。イベントとしては、4月のアースデイ、6月に環境フェスタ、11月に冬の彩りフェスタなどがある。通年通して奈良市、青年会議所をはじめ、県内のイベントが多数あるので、そういったところに積極的に出展していくことで、イベントを通じて県内への普及啓発ができる。
- ・イベント等で、リユースびん入り商品を市町村等が販売するとした場合において、拠点となる互助会等がなかった場合でも、代理販売できる仕組みがあると良い。例えばスポット納品という形で、(株)桶谷から販売。ケース単位で販売できない場合、返却できなかった場合どうするか。細かいところをどのようにするかを事務局にて(株)桶谷と調整する。

#### 【本協議会構成員名簿の確認】

事務局より、構成員名簿案について説明。4月1日までに確定させるよう調整中である。

- ・奈良青年会議所は、参加は同意頂いているが幹事としての参加を調整している。
- ・株式会社桶谷の担当者は、業務用卸部部長の櫻井氏となる見込み。

- ・奈良市地球温暖化対策地域協議会は担当者調整中、生駒市環境基本計画推進会議は参加に対して大筋合意を頂いており、同じく担当者を調整中である。
- ・奈良県酒造組合は、3月の役員会で最終決定を行う。同組合会長の(株)岡本本家の岡本社長には、非常に好意的にとらえて頂いている。
- ・JAについて、JAの子会社である大和茶販売株式会社に打診中。
- ・大和容器、大和郡山市のびん商、古紙問屋であり、奈良県酒造組合との調整状況も踏まえて事務局から打診する。

#### 【びんリユース推進シンポジウム開催について】

本協議会として広報協力を行う。主催である環境省から報道発表がなされ次第、共催である奈良市並びに生駒市、また奈良県からも各記者クラブへ報道発表を実施する。また、本協議会の参画団体においては自らの媒体において広報を実施する。

#### 【今後の流れについて】

- ・設立準備会合としては、今回が最終回となる。次回は顔合わせの会議(総会準備会合)を実施してその上で総会を開催する。
- ・本協議会の事業計画書については、幹事会にて協議を行う。
- ・総会準備会合をシンポジウム開催日である3月20日(木:12時~)に開催する。
- ・総会準備会合での顔合わせにおいては、趣意書、会則、等の確認をするイメージ。
- ・アースデイの4月20日までに総会を開催することを想定し、下記を想定。
- ・3月20日に総会準備会合。幹事会は4月2or3日13時30分を仮日程とする。幹事会については、奈良市並びに生駒市の平成26年度人事が決定次第、日程を正式に決定する。総会は4月15日(火)16時から1時間+懇親会の予定とする。

#### 【第四回協議会設立準備会のまとめ】

本協議会の設立趣意書及び会則について承認を得ることができた。本協議会における取組方針及び運営体制に関して合意形成を整えることができ、具体的な事業計画のもと、取組を実施する段階に移ることができた。また参加団体より本協議会の運営予算に関して意見がなされ、平成26年度より取組を実施していく上で幹事会において検討する運びとなった。

## 2.4. 本協議会の具体的内容

第2章第3節における本協議会設立準備会により協議された結果を以て、本協議会は以下の通り設立されることになった。

なお、本協議会設立趣意書・会則は別紙 を参照願う。

### 1) 目的

「本協議会は、奈良県内において、びんリユースの推進が容器包装廃棄物の排出抑制、温室効果ガス排出量の低減、地域経済の振興等に貢献できる可能性を広く内外に発信するとともに、自らもびんリユースを推進する取り組みを実施し、もって我が国の循環型社会形成に寄与するものである」とした。この点において、本協議会は、地球環境負荷の低減とびんリユースの推進が対象である地域の振興等に貢献できる可能性を調査検討するという一歩踏み込んだ内容となっている。

### 2) 取組内容

・当該地域において既に実施されているびんリユースの取り組みを基に、その「経験知」と「知識知」の蓄積を行い、さらなるびんリユースシステムの構築と拡大を図る。

奈良県内では平成24年度より、リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』が開発されており、当団体が普及活動を行っている。既に奈良市・生駒市とする地方公共団体の他、奈良県内を中心とするホテル・旅館及び飲食店でも普及がされていることから、普及活動によって得られた「経験知」と「知識知」を本協議会に反映し、奈良県内を中心するびんリユースシステムのさらなる拡大と構築を図る取り組みを本協議会として実施する。

・びんリユースにおける、容器包装廃棄物の排出抑制と温室効果ガス排出量の低減、循環型社会形成への寄与の情報発信や広報。

びんリユースにおける地球環境負荷の低減効果を発信するため、主に奈良県内で開催される地域イベント等に出展し、広報活動を行う。

・びんリユースにおける地域経済への貢献調査と検討。

びんリユースが地球環境負荷の低減だけでなく、対象である地域経済へも貢献できる可能性を調査検討し、検討結果を広く内外に発信することにより、さらなるびんリユースシステムの拡大図るものである。

・びんリユース促進における環境教育手法の検討。

将来を担う世代へびんリユースシステムを継承するため、その手法を検討し、取り組みを実施する。現段階では、奈良県内における学校牛乳びんの利用率を調査するところから始めていきたいと考えている。



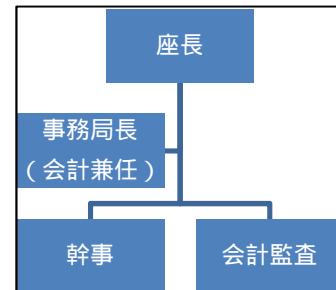
・その他座長が必要と判断する取り組み。

本協議会を運営していく上で、上記 4 項の取り組みの他、びんリユースを推進していく上で座長が必要と判断する取り組みを実施する。

### 3) 運営体制

本協議会では、座長をはじめとする役員を選任し、本協議会の運営にあたる。

- ・座長は、本協議会を代表し業務を統括する。
- ・事務局長(会計兼任)は、座長を補佐し、座長が事故あるときはその職務を代理する。また、本協議会の会計を管理する。
- ・幹事は、本協議会の運営に当たる。
- ・会計監査は、本協議会の会計事務を監査する。



また、本協議会では総会を最高意思決定機関とするとともに、幹事会(座長・事務局長・幹事・会計監査)を置き、本協議会の運営にあたる。

### 4) 本協議会の構成員

本協議会は以下の構成員を以て設立する予定である。(平成 25 年度現在)

役職等	氏名	所属等
座長	西田 正憲	奈良県立大学 地域創造学部 学部長
事務局長	中島 光	World Seed 副代表理事
幹事	新井 哲彰	奈良市 環境部 環境政策課 課長
幹事	岡田 敏幸	生駒市 環境経済部 環境政策課 課長
幹事	遊津 隆義	奈良県地球温暖化防止活動推進センター センター長
幹事	北浦 由香	特定非営利活動法人 奈良ストップ温暖化の会 副理事長
構成員	伊藤 政夫	一般社団法人 奈良青年会議所 理事長
構成員	小沢 一郎	びんリユース推進全国協議会 事務局長
構成員	石丸 元太郎	奈良市中心市街地活性化協議会 主事
構成員	櫻井 秀夫	株式会社 桶谷 業務用卸部 部長
構成員	栗岡 理子	奈良市地球温暖化対策地域協議会
構成員	1	生駒市環境基本計画推進会議
構成員	1	奈良県酒造組合
構成員	1	大和茶販売株式会社

1: 現段階において調整中又、検討中の段階であり、今後継続して本協議会への参画に向けて協議を進めていく。

## 5)まとめ

本協議会では、協議会設立準備会内での各参画団体との協議より「リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』の取り組み事例をもとに、奈良県内における“地域単位でのびんリユース”をさらに推進していく上で、課題となる点やその解決方法等を多様な主体とともに議論し、情報を共有し、その認識を深め、必要な取り組みを実施することにより、“誰もが、びんリユースの重要性を認識し、生活行動(消費行動)のひとつにこれが組み込まれる”ことを将来像として目指すものである」としており、平成 26 年度より事業計画を策定し、まずは奈良県内のびんリユースの現状調査から始めていきたいと考えている。

本協議会における現状の課題として、事業者系の参画団体が乏しく、本協議会の取組を実施していく上で事業者系の参画が必要不可欠であり、今後も継続して参画への打診と協議を行っていく。

## 2.5. インターネットを活用した広報媒体の構築

本事業では、平成 24 年度のリユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』の開発から本事業を発信する媒体をフェイスブックに限られており、具体的なびんリユースの取り組み発信が難しい状況であったことから、ホームページの構築を行った。

### 1) ホームページを構築するにあたってのコンセプト

リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』の取り組みをよりわかりやすく、そしてびんリユースに空きびんを「返す」という行為を以て参加でき、地球環境に貢献できるものであることを理解してもらうため、以下のコンセプトを構築した。

リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』と  
あなたとのつながりを、これから

リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』は、  
「環境」と「地域」がとけあう今までにない新しい商品です。

今や国レベルで、私たちが住んでいるこの地球は大きな環境変化を受けています。

私たちの「豊かさ」「便利さ」への追求は、結果としてこの地球という  
私たちの家に対して大きなダメージを与え続けています

私たちは、先人たちがそうであったように、  
将来を担う世代に環境豊かな社会生活という「バトン」を渡し、生き活きと  
生活できるチャンスを与えなければいけません。

『と、わ(To WA)』は、この地球を守り、

未来の生活を守る小さなアクションを起こすために生まれました。

『と、わ(To WA)』は奈良県特産の大和茶という一等茶葉を、ごみを出さないリユースびんに  
密封してできています。

地域で採れたものを地域で消費し、  
ごみを出さず、今ある資源を未来へ引き継ぐ今までにない新しい商品。

『と、わ(To WA)』で起こす小さなアクションは、買って楽しむ「ひと」、  
『と、わ(To WA)』を造る「ひと」、『と、わ(To WA)』を運び、回収する「ひと」が繋がり、  
びんが「めぐる」ことで地域循環を促すシステムです。

あなたが『と、わ(To WA)』をご購入し、大和茶を「味わい」、びんを「楽しみ」、  
そしてびんを「返す」ことで、この地域をめぐるいく小さな「環」にご参加していただけます

びんを「使ったら返す」、ほんの小さなアクションが広がれば、  
地域が繋がり、日本を絆ぐ大きな「輪」に  
成長させることができます。

おひとりおひとりが、  
この小さなアクションにご参加いただくことで、  
『と、わ(To WA)』はひとを「繋ぎ」、  
地域を「めくらせ」、日本をやがては絆ぐ「輪」を生み出していきます。

『と、わ(To WA)』は、この「輪」が限りなく「永遠」につながるように...  
と願いをこめて、この名が名づけられました。

World Seed と『と、わ(To WA)』プロジェクトを計画している多くの団体は、  
まず「ひと」と「ひと」を「繋ぐ」ことから始めました。

「ひと」と「ひと」を今の時代に繋ぎ未来へもつなげる、  
環境も「私たちの幸せ」もめぐりめぐる社会の実現。

それが、私たちの想いです。

## 2) ホームページの内容



本ホームページは、リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』がどのような経緯で開発され、その根底にあるびんリユースの重要性について発信する内容となっている。プロジェクトブログでは、各項目をブログ形式で構築しており、更新をやすくしている。

## 2) ホームページのURL

本ホームページは以下のURLより閲覧可能である。

・URL : <http://yamatocha-to-wa.com/>

### 3. びんリユース推進シンポジウム及びPRイベントでの情報発信

平成 25 年度 環境省主催「びんリユース推進シンポジウム(以下、本シンポジウム)」及びPRイベントに協力し、大和びんリユース推進協議会として企画・運営を含めて協力した。シンポジウムの概要について報告する。

#### 1) シンポジウムの趣旨

- ・環境省では、「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」を開催しており、平成 24 年度に開催された「びんリユース推進シンポジウム(平成 24 年度 2 月 18 日宮城県にて開催)」においても我が国のびんリユースにおいては、自立かつ継続した事業の実施が必要であり、地域循環圏を軸にした地域経済にも貢献できるものとして多様な団体とともに認識を深めていく必要があるとされている。
- ・シンポジウムでは、平成 24 年度地域実証事業「奈良県内におけるびんリユースを用いた大和茶飲料開発・販売事業」にて開発されたリユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』(以下、本商品)の取り組みをもとに、これを活用した地方公共団体における会議等で率先したリユースびん入り商品活用の有効性を広く内外に発信するとともに、地域循環圏におけるびんリユースが地域経済の振興に寄与できる点を情報共有・情報発信する場とする。  
シンポジウムでは、特に本商品の公共施設内で開催される会議等での率先した利用を広く発信し、その有効性の理解を深めるとともに、びんリユースによる地域経済への振興可能性を認識することを大きなねらいとした。

#### 2) 本シンポジウムの概要

本シンポジウムでは、「基調講演」の他、「事例紹介」、「パネルディスカッション」を実施した。

##### 【事例紹介】

- ・我が国の2R 推進の取り組みについて、地方公共団体による本商品の活用事例 他地域(東海地域)におけるびんリユースの取組事例とする。

##### 【パネルディスカッション】

奈良県内組織を中心として、地域のびんリユースが地域経済の貢献にも寄与できる点を議論し、情報の認識を行い、これを発信する。また、パネルディスカッションの前に、奈良県内における活用事例紹介のプレゼンテーションを行う。

本シンポジウムでは、びんリユースについて関心を有す、地方公共団体、地元経済界団体、ホテル・旅館及び飲食店関係者、市民団体と想定し、単なる情報発信だけではなく、びんリユースにおける地域振興(まちづくり)の観点において、この可能性について意見交換ができる場を目指した。また、リユースびん入り商品の活用事例を紹介し、実際に導入(調達)を促すPRイベントを併催した。

### 3)本シンポジウムの構成

日 時:平成 26 年 3 月 20 日(木)13:30 ~ 17:00 (13 時開場)

件 名:びんリユース推進シンポジウム

主 催:環境省

共催:奈良市・生駒市

後援:奈良県

場 所:ホテル日航奈良( 定員 100 人程度、参加費無料)

#### 構成

##### )主催者挨拶

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室 室長 庄子 真憲 氏

生駒市 市長 山下 真 氏・生駒市 副市長 小紫 雅史 氏

##### )基調講演(13:40~14:20)

独立行政法人 製品評価技術基盤機構 理事長 安井 至 氏

##### )リユース びんの取組事例紹介(14:20~15:00)

「我が国の2R 推進の取り組みについて」

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室室長 庄子 真憲 氏

「公共施設等におけるリユースびん入り商品の導入活用事例紹介」

奈良市 環境部 環境政策課 課長 新井 哲彰 氏

生駒市 環境経済部 環境政策課 課長 岡田 敏幸 氏

「東海地域におけるびんリユースの取り組み」

東海地域びんリユース推進協議会設立準備会 座長

名古屋大学大学院環境学研究科 特任助教 松野 正太郎 氏

##### )パネルディスカッション(15:20~17:00)

##### 奈良県内での活用事例紹介

奈良県内でのリユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』の活用事例紹介

・大和(やまと)びんリユース推進協議会設立準備会 事務局 「World Seed」中島 光

コーディネーター 西田 正憲(大和(やまと)びんリユース推進協議会設立準備会 座長)

##### パネリスト

片桐 新之介 奈良市中心市街地活性化協議会 タウンマネージャー

森下 圭太郎 奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合 青年部

北浦 由香 NPO法人 奈良ストップ温暖化の会

(奈良県地球温暖化防止活動推進センター)事務局長

寺前 美加 NPO法人 ほっとねっと 理事

小沢 一郎 びんリユース推進全国協議会 事務局長

松野 正太郎 東海地域びんリユース推進協議会設立準備会 座長

名古屋大学大学院環境学研究科 特任助教

高津 融男 奈良県立大学 地域創造学部 准教授  
新井 哲彰 奈良市 環境部 環境政策課 課長  
岡田 敏幸 生駒市 環境経済部 環境政策課 課長  
庄子 真憲 境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室室長

(順不同・敬称略)

#### 4) パネルディスカッションのテーマ

「地域におけるびんリユースとまちづくりの可能性について」

論点1・地域におけるびんリユースはどのように進めてくべきか？

論点2・地域を活性させる上でのびんリユースの役割とは？

本シンポジウムパネルディスカッションでは、びんリユースにおけるまちづくり(地域経済への振興)を主な観点としてパネラーによるディスカッションを行った。

#### 5) パネルディスカッションの内容

- ・本シンポジウムでは、平成 25 年度 5 月閣議決定した「第三次循環型社会形成推進基本計画」を基に、地域循環圏構築におけるびんリユースの有効性と地域におけるびんリユースが、地域経済の振興に繋がり、普及対象地域のまちづくりに寄与できる可能性をディスカッションした。
- ・奈良県内では、平成 24 年度より「環境省びんリユースシステム構築に向けた実証事業」により開発されたリユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)が普及されており、行政では奈良市及び生駒市が全国で初めて、会議等における率先した利用を開始している地域でもある。また、ホテル・旅館及び飲食店でも普及が徐々に拡大しており、地域におけるびんリユース普及促進の先進的事例として、これを当該地域の多様な関係者とともに議論し、認識を深める場とした。
- ・また、グリーン購入の観点からも、リユースびん入り商品の活用は、非常に有効性のある点を、奈良市及び生駒市から意見をもらうことで、特に地方公共団体でのさらなる導入の機会とした。
- ・本シンポジウムでは、我が国における地域循環圏を軸とした循環型社会を形成していく上で、びんリユースを促進し、普及していくことが非常に有効性である点を参加者とともに認識し、また、地域振興(まちづくり)にも貢献できる可能性において共有することを、到着地点とした。

#### 6) 広報体制

シンポジウムの広報は下記の通りであり、大和びんリユース推進協議会として協力を行った。

- ・環境省報道発表: 2 月 28 日 (<https://www.env.go.jp/press/press.php?serial=17821>)
- ・近畿県内地方公共団体へのダイレクトメール: 232 部(内 4 部は近隣地方公共団体へ案内)
- ・奈良市: 「奈良しみんだより」での募集広報(21 頁)・奈良市内各公共施設へのちらし配布(約 500 部)
- ・生駒市: 「生駒市市制だより」での募集広報・生駒市関連施設へのちらし配布(約 100 部)
- ・奈良市中心市街地活性化協議会: ブログでの広報


(<http://naracity-chukatsu.seesaa.net/article/389444856.html>) ・ 同協議会会報誌等で参画団体へちらし配布(約 100 部)

・ NPO法人 奈良ストップ温暖化の会: 会員等にメール広報及びちらし配布(約 200 部)

## びんリユース推進シンポジウム

～地球にやさしく、  
私たちの生活も豊かにする“びんリユース”～

**【と き】** 3月20日(木) 午後1時半～5時  
**【ところ】** ホテル日航奈良(三条本町)  
**【内容】**  
 3Rのうち、「リユース」にスポットを当て、その中でも優等生である「リユースびん(リターナブルびん)」の事例紹介、びんリユースのPR展示等  
**【定 員】**  
 100人程度。団体による申込も可。定員になり次第締切  
**【申 込】**  
 FAX・Eメールに事業名、個人は住所・氏名(ふりがな)・電話番号、団体は団体名(ふりがな)・所在地・電話番号・参加人数を書いて、環境政策課へ。  
**【問合せ】** 環境政策課  
 ☎0742-34-4591  
 ☎0742-36-5466  
 Eメール: new-nara@city.nara.lg.jp



21 奈良しみんだより  
平成 26 年(2014 年) 3 月

### 奈良しみんだより

シンポジウムでは、共催として奈良市並びに生駒市、後援として奈良県としており、環境省の報道発表を以て各記者クラブへの報道発表を実施した。また、大和びんリユース推進協議会参画団体の方でも広報を展開した。

本シンポジウムの広報では、ちらし(右)を作成し、広報にあたった。ちらしについては、びんリユースのフロー図を記載し、参加者対象者へ理解が深まるように工夫した。

**びんリユース推進シンポジウム**

●と き 3月20日(木) 13時30分～17時(13時開場) ホテル日航奈良(奈良市三条本町)

●内容 ①独法製品評価技術基盤機構理事長の安井至さんによる「びんリユースにおける現状と重要性について」の基調講演、びんリユースの取組事例紹介、パネルディスカッションなど

●定員 100人(申込順)

●費用 無料(申込不要)

●問合せ アックスか電子メールで、住所・氏名、電話番号・びんリユース推進シンポジウムと書いて、3月14日(金)までに環境政策課(内線372、☎75-8126、kansai@city.nara.lg.jp)へ。この事業は環境省が主催し、本市と奈良市が共催して行います。

### 生駒市市民だより(生駒市)

# びんリユース推進シンポジウム

平成 26 年 3 月 20 日 (木)  
**13:30 ~ 17:00 (開場 13:00)**  
**ホテル日航奈良**

**同時開催 PR イベント** リユースびん導入に関するご相談を承ります。

主催 | 環境省 共催 | 奈良市・生駒市  
 後援 | 奈良県 定員 | 100名(参加費無料)

「びんリユース」の取組事例紹介  
 ①我が国の2倍量の取組について(前)  
 独立行政法人 資源循環技術センター 理事 森 庄平 氏  
 ②「公共施設等におけるリユースびん入り商品の導入活用事例紹介」  
 奈良県 環境政策課 副課長 森野 晋也 氏  
 生駒市 環境政策課 課長 岡田 隆幸 氏  
 ③「東海地域におけるびんリユースの取組」  
 東海地域びんリユース推進協議会 理事 松本 浩平 氏  
 生駒市 環境政策課 課長 岡田 隆幸 氏

基調講演 環境省 理事長 安井 至 氏  
 「びんリユース」の現状と重要性について  
 パネリスト  
 西田 正憲 氏(奈良市) 森野 晋也 氏(奈良県) 岡田 隆幸 氏(生駒市)

「びんリユース」の取組事例紹介  
 ①我が国の2倍量の取組について(後)  
 独立行政法人 資源循環技術センター 理事 森 庄平 氏



### 7) 当日参加状況

本シンポジウムにおける参加人数は以下の通りであった。

- ・行政関係者(地方公共団体職員): 12人
- ・事業者: 11人
- ・出版関係: 5人
- ・市民団体: 2人
- ・一般市民: 8人
- ・報道関係: 1人
- ・関係者: 36人
- ・合計 75名



### 8) 当日の風景

- ・主催者挨拶



環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室室長 庄子 真憲 氏



生駒市 市長 山下 真 氏



生駒市 副市長 小紫 雅史 氏

・基調講演及び事例紹介



基調講演：安井 至 氏



事例紹介：庄子 真憲 氏



事例紹介：新井 哲彰 氏

事例紹介では、特に奈良市と生駒市より公共施設の会議等におけるリユースびん入り商品導入の経緯と現状の課題を主にお話いただいた。両市ともに会議等でリユースびん入り商品を導入する際に、「栓の抜き方」、「コップ使用の有無」等の課題がありつつも、リユースを推進する上で、リユースびん商品を活用することは、非



事例紹介：岡田 敏幸 氏

常に有効である点をご発表いただいた。また、他地域の事例として、東海地域におけるびんリユースの取り組み事例を松野氏よりご発表いただいた。東海地域においては、びんリユースの取り組みを「環境」、「地産地消」、「障がい者雇用」の三つの観点からアプローチする方を提示いただいた。



事例紹介：松野 正太郎 氏

・パネルディスカッション



プレゼンテーション：中島 光 氏



パネルディスカッション風景

本シンポジウムパネルディスカッションでは、ディスカッションの前に、大和びんリユース推進協議会やまと設立準備会事務局長「World Seed」の中島 光氏より現在の奈良県内におけるリユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』の取り組み事例紹介と、びんリユースが地域経済に貢献できる可能性また、その必要性を発表した。

パネルディスカッションにおいては、各パネラーからの取り組み紹介の後、森下氏(奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合)よりびんリユースの取り組みは地域の景観まちづくりに寄与できる点をご発言いただき、地域に根差したびんリユースを行うためには、地域の酒屋を振興することで、より広くびんリユースシステムを構築し、地域コミュニティの再生にも繋がる可能性をパネラーの皆さままでディスカッションいただいた。

パネルディスカッション終盤には、グリーン購入の観点からびんリユースにおける取り組みの有効性について、新井氏(奈良市)並びに岡田氏(生駒市)よりご発言いただいた。

最後にパネルディスカッションでは、地域循環圏を構築していく上で、びんリユースは地産地消で取り組むことができ、様々な手法で地域に還元できる可能性を有するものである認識がなされた。

9) 参加者へのアンケート調査

本シンポジウムでは参加者を対象にアンケート調査を実施した。設問事項は以下の通りである。

設問1 本シンポジウムをどの媒体でお知りになりましたか？(当てはまるもの全てにチェック)

環境省のホームページ      環境省からの案内文

奈良市の市制だより      生駒市の市制だより

その他(具体的に      )

設問2 環境省や奈良市、生駒市などびんリユースを推進していることをご存知でしたか？

知っていた      知らなかった

設問3 - 1 地方自治体の職員の方にお伺い致します(それ以外の方は設問4へ)  
貴自治体ではびんリユース促進に向けた取組をしていますか。行っている場合にはその概要をご記入ください。(例えば、リユースびんの率先調達、資源物からの活きびん回収、集団回収、関係事業者との連携など)

設問3 - 2 地方自治体の職員の方にお伺い致します(それ以外の方は設問4へ)  
貴自治体ではびんリユース推進に関心がありますか。(ご回答者の感想で結構です)  
関心がある      関心はない      分からない

差し支えなければ、貴自治体名をご記入ください。

設問4 本シンポジウムに参加しての感想、今後取り上げて欲しいテーマなどございましたら自由にご記入ください。

#### 10) 参加者へのアンケート調査結果

設問1 本シンポジウムをどの媒体でお知りになりましたか？(当てはまるもの全てにチェック)

環境省のホームページ: 8      環境省からの案内文: 4

奈良市の市制だより: 1      生駒市の市制だより: 1

その他: 15

その他の具体例

・関係者からの案内: 9

・市のメール案内

・役所においていたちらし

・環境省新着メールニュース

・友人の紹介

本シンポジウムでは上記6)にて記載したように、各関係団体からも広報を行ったことにより、関係者からの案内による参加申込が多くあった。

設問2 環境省や奈良市、生駒市などびんリユースを推進していることをご存知でしたか？

知っていた: 21      知らなかった: 7

本シンポジウムの参加者においては、環境省や奈良市・生駒市でのびんリユース推進事例を既に知っていた人数の方が多かった。

設問3 - 1 地方自治体の職員の方にお伺い致します(それ以外の方は設問4へ)

貴自治体ではびんリユース促進に向けた取組をしていますか。行っている場合にはその概要をご記入ください。(例えば、リユースびんの率先調達、資源物からの活きびん回収、集団回収、関係事業

者との連携など)

- ・空きびんのコンテナ回収を行っている。
- ・週1回活きびん回収(無色・茶・その他)の色分けを処理場(3Rセンター)で行っている。
- ・商業施設、公共施設へ資源物回収BOXの設置。回収マップを作成し、市民への周知、環境イベントなどで資源物回収の実施と近くの資源物回収拠点の周知案内
- ・びんリユースには取り組んでいないが、ガラスびんリサイクル(びん to びん)に取り組んでいる。
- ・リユースびん回収を行っている酒販店をエコショップ認定し、積極的に広報を行っている。

設問3 - 2 地方自治体の職員の方にお伺い致します(それ以外の方は設問4へ)

貴自治体ではびんリユース推進に関心がありますか。(ご回答者の感想で結構です)

関心がある:6 関心はない:0 分からない:1

本シンポジウムに参加した自治体においては、びんリユースの推進に関心があることがわかった。この点において、既にびんリユースの取り組みを実施している自治体とまだ関心はあるが実施していない自治体があることがわかる。

設問4 本シンポジウムに参加しての感想、今後取り上げて欲しいテーマなどございましたら自由にご記入ください。

- ・自治体から市民への思い切った普及啓発方策を考える必要がある。
- ・大変勉強になりました。官民が協力して行う取り組み事例の数々に感銘を受けると共に、関係部局や団体との調整等、実際の事業の実施には越えなければならない壁がたくさんあると思いました。しかしながら、成功事例の数々に勇気ももらいましたので、微力ながら施策の提案などをしていきたいと思いました。
- ・環境学習の一環として学校給食の中で牛乳に用いる容器(びん・紙パック等)を活かして地球環境を維持できるかを考える場を利用できればと考えている。
- ・参考になりました。
- ・有意義でした。内容も豊富で勉強になった。
- ・『と、わ(To WA)』の取り組みや学校給食の牛乳びんの取り組みなど、興味深い話が多く聞け、参考になりました
- ・リユースびん(ワンウェイびん以外)を一目でわかるよう、今後全国的に展開し、2~3年以内に実施していただきたい。同時にどこに持ち込めばよいか広報すること、啓発が望まれる。
- ・リユースびんが多く生まれることを希望する。
- ・Rドロップスを用いた飲料の販売者を全員集めてパネルディスカッションをしていただきたい。(新宿サイダー・池ソーダ・『と、わ(To WA)』・茶々・岡山)
- ・学校給食牛乳びん率の都道府県比較による著しい違い、びんリユースを通じた地域の多様な問題の改善の視点が参考になった。会場の雰囲気や和やかだった。
- ・これから東海地域で、リユースびんを推進していく上で、たくさんのヒントを得た。地域ごとの特性を

活かしていくことがポイントになることを痛感した。非常に勉強になりました。

- ・実例を挙げての取り組みが知りたかった。
- ・なぜ学校給食のびんがパックに変わったのか？その理由が知りたかった。
- ・住居のある自治体の廃棄物減量等推進審議会で、びんリユースにいて意見及び提案をしている。兵庫県でも取り組みが始まるように現状把握から始めたい。イベントで取り上げていきたい。
- ・大和びんリユース推進協議会の活動が活発に進められることを願っています。びんの規格や技術的な側面を学べる企画があってもよいのではないかと？
- ・びんのリユースに課題を感じましたが、リサイクルからリユースの転換が急務と思いました。またペットボトルについてはリユースできる方向性を考えてほしいと思いました。リユースびんも栓抜きのいらぬものを開発できたら面白いと思いました。
- ・カレットに関する取り組みに紹介。びんリユースの点で、実際に学校給食で使用されている生徒、PTA、学校関係者の声や、それに関連してどの様に環境意識を持つ様になったかなどの調査データがあればと思います。利便性の良い製品は必ず負の部分を生む点があると感じます。ツールの一つとはわかっているが、地域振興につながる物がないとびんリユースが進みにくいものであると改めて感じます。
- ・リユース食器の事例も今後取り上げていただきたい。  
特に自治体の意見において、びんリユースの新たな推進施策を考える新たな機会となったことが見受けられる。また、学校給食における牛乳びんに関する意見が多くあることから、新たなびんリユースの推進方策として関心が高いと見受けられる。

#### 11) 本シンポジウムのまとめ

本シンポジウムによって、奈良県内で実施されているびんリユースの取り組みを広く発信することにより、近畿圏を中心とする特に地方自治体への波及可能性を認識することができたと考える。今後、本シンポジウムの機会を以てさらなるびんリユースシステムの拡大を奈良県内だけでなく、近畿圏へ広げる機会を得ることができたと考える。

### 3.1. PRイベントへの協力

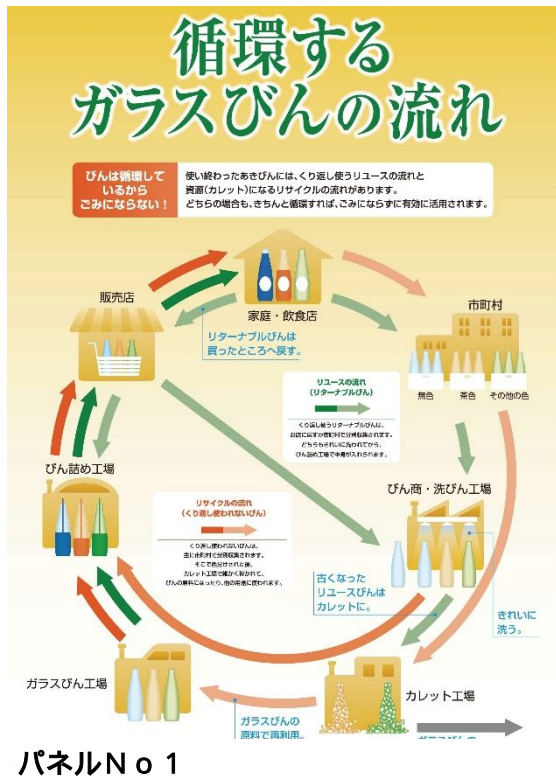
平成 25 年度 環境省「びんリユース推進シンポジウム」に併催されたPRイベントにて協力を行った。

1) 目的

本シンポジウムの参加者を対象に、びんリユースにおける現状や取り組み内容がわかるPRパネルを作成し、理解を深めるとともに、実際にリユースびん入り商品の導入を促すため、PRイベントを開催した。また、PRイベントでは相談員を配置し、実際のリユースびん入り商品導入(調達)に関する相談をその場でできよう図った。

2) 実施内容

PRイベントでは、びんリユースに関するPRパネルを4枚の作成に協力した。



**びんリユースとは?**

なぜ今びんリユースなのか?

【リサイクルだけでなくリユースも大事】  
リユース(再使用)は、産業社会形成促進法に基づいて、リサイクル(再資源化)よりも優先度が高い経路として位置づけられています。環境省では、平成22年度から「我が国におけるびんリユースのあり方に資する統計調査」を開始し、リユースかつでもびんリユースの発展を促進しています。

【容器の危機にあるびんリユース】  
現在、我が国のびんリユースシステムは、リターナブル(リユース)びんの割合が減少により、存続の危機にあります。びんリユースシステムは、びん工場に送られてくる資源(カレット)を多く、製造社会の循環に貢献する役割として、この機会に再評価しつづける必要を感じています。「保存しているびんリユースシステムの高度化と発展」、「新たな形態のびんリユースシステムの構築」を行い、全国的に取組を進めていくことが必要であると考えています。

リユースびん・ワンウェイびんの使用量、リユースびん比率の推移

望ましいびんリユースのかたち

びんリユースシステムを内容によって整理すると、大きく2つに分けることができます。

オープンシステム  
一般消費者向けに販売したびんを回収・リユースする仕組みと回収が困難なものを含む次びんをリユースする仕組み

クローズドシステム  
自社が販売したびんを回収・リユースする仕組みと回収が困難なものを含む次びんをリユースする仕組み

以上をびんリユースシステムの仕組みを構築することで、全国的に取組を進めていく必要があると考えられています。

びんリユースの意義と効果

環境保全  
● 廃棄物の発生抑制 ● 天然資源の消費の抑制  
● 資源枯渇にかかわる天然資源の消費抑制 エネルギー使用・CO<sub>2</sub>排出削減

コストメリット  
【中身メーカー】  
びん調達費用の削減、  
資源循環リサイクル法に基づく  
再商品化委託業務の削減

【消費者】  
空きびんの引き渡し時に  
返金や割引などの利得を  
得られる場合がある

パネルNo 2

# リユースびん入り商品 導入のメリット

今、奈良県内では、全国でも先進的な取組として、奈良市と生駒市が公共施設において、会議等で半定したリユースびん商品の導入を推進しています。

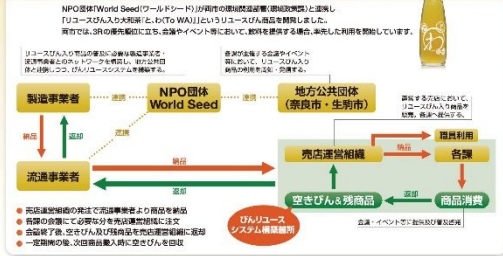
近畿圏で「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」において「公共施設や公共のイベント及び会議等において積極的にリユースびん商品の利用を率先推進し、自らリユースびんの需要拡大に努めていくことも消費促進の手段として考えられる」としており、今後、公共施設等でのさらなる導入拡大に向けて方を検討していきたいと考えています。

## リユースびん入り商品導入のメリットは何なの？

飲料や食品、書籍など社会を形成するためには、3Rの観点から、リデュース・リユースをより推進する必要があります。多くの事業者がリユースの必要性を認識し推進するため、公共施設において、リユースびん入り商品を会議やイベント等で導入することも非常に有効です。

- メリット1** 環境にやさしい商品として、企業イメージ向上に貢献できる。
- メリット2** 会議やイベントでリユースびん入り商品を使用することで、リユースびん入り商品の認知度を高め、需要を拡大できる。
- メリット3** 環境にやさしい商品として、企業イメージ向上に貢献できる。

## 奈良市と生駒市の事例



## リユースびん入り商品を導入するにはどうすればいいの？

リユースびん入り商品の導入を推進するには、現地の環境に合わせた取組が必要となります。具体的には、環境的、経済的、社会的な観点から、公共施設での導入を推進している事業者との連携を促進し、導入のハードルを低くする必要があります。また、リユースびん入り商品の導入はコストがかかるため、コスト削減が求められる場合があります。また、リユースびん入り商品の導入はコストがかかるため、コスト削減が求められる場合があります。また、リユースびん入り商品の導入はコストがかかるため、コスト削減が求められる場合があります。

# リユースびん入り大和茶 「と、わ(To WA)」

## 奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶飲料普及促進事業

リユースびん入り大和茶「と、わ(To WA)」は地域で採れた茶葉を地域で消費し、ごみを出さず、今ある資源を未来へ引き継ぐ今までにない新しい商品として、奈良の街をめぐっています。



### 公共施設での導入

本商品の会議やイベント等利用を促進し、リユースの認知度を高めるため、公共施設で利用されるイベントなどにおいて、本商品を導入しました。現在、奈良市・生駒市において導入を説明し、会議やイベント等利用を推進しています。



### 受賞経歴

平成26年度グリーン購入ネットワーク(GPN)主催  
「第15回グリーン購入大賞」  
生駒市が「優秀賞」を受賞。



平成26年度リデュース・リユース・リサイクル推進協議会主催  
「3R推進功労者等表彰」  
「リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞」を受賞



### 利用状況

奈良県内を中心に、現在約55店舗で取り扱っており、今後も普及拡大に向けてアプローチをしております。

地方公共団体	ホテル・旅館	飲食店
奈良市・公益財団法人奈良市生涯学習センター・生駒市立生涯学習センター(株式会社JTBコミュニケーションズ 指定調達)	奈良市内 奈良県吉野川方面 本子川日航ホテル はじめとする 計4軒のホテル (計10軒のホテル、旅館でご利用いただいております。)	県内約40店舗でご利用いただいております。本商品を専用したオリジナルガラス・チェイサーとしてのご利用が好評です。

パネルNo 3

パネルNo 4

パネルNo 1については、ガラスびん全体の循環図を表しており、ガラスびんリサイクル促進協議会にご協力いただいた。パネルNo 2は、現在のびんリユースの現状、これからのびんリユースの望ましい形、びんリユースの効果を記載した。パネルNo 3は奈良県内における奈良市並びに生駒市での公共施設会議等でリユースびん入り商品の率先した利用取り組みを表している。最後にパネルNo 4は、奈良県内でのリユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』の紹介パネルである。

合計 4 枚のパネルにより、びんリユースの概要、具体的な取組事例をより深く理解できるように作成した。また、PRイベントではこの他、パネルに記載した内容をより広く知ってもらうよう、A4版の冊子も作成した。

### 3) 実施結果報告

PRイベントは、「びんリユース推進シンポジウム」会場入口付近に設置した。作成したPRパネルをパーティションに張り、また机にはリユースびん入り商品のサンプルを展示した。近畿圏で主に流通する商品については、会場後方の試飲ブースにて参加者が自由に試飲できるようにした。また商品サンプルでは、ガラスびんリサイクル促進協議会のサンプルびんをお借りした。





・PRイベント来場者数:約 40 名

・PRイベント相談数:2 件

【相談内容詳細】

地方自治体:当該地域の公共施設内で開催される会議等においてリユースびん入り商品の導入方法を今後検討していきたい。現段階では構想の段階ですぐに実現が難しいかもしれないが、今後実施する上での課題整理からはじめていきたい。

への返答:奈良県内における奈良市並びに生駒市の事例をモデルとして応用できないか返答した。これにおいては地域の特性についてまず調査からはじめ、応用できか判断する必要があるため、今後情報交換をしていくことで合意した。

事業者(奈良県内):奈良県内で9月に開催を予定している200人規模の会議にてリユースびん入り商品を導入したいが可能か？

への返答:イベント利用でスポット納品の可能性があるが可能である。事務的手続きが必要であるので、今後調整していく。

4) まとめ

PRイベントでは「びんリユース推進シンポジウム」と併催の形を取ることで、視覚的にびんリユースの取り組みを発信できたと考えている。また本PRイベントでは2件の具体的な相談を受けることができ、視覚的に発信からリユースびん入り商品の導入と拡大に向けて可能性を示すことができた。

#### 4. 本事業における検討課題

本事業に設立する大和びんリユース推進協議会において、行政分野、地元経済会、市民団体の参画について合意しているが、奈良県内事業者の参画について今後とも引き続き検討する必要がある。本協議会としては事業者等の参画により、びんリユースの理解を深め、本協議会の定めた取り組みを効果的に実施できると考えており、事業者の中でも特にリユースびん入り商品を製造する充填事業者の正式な参画に向けて今後も協議をしていく。

#### 5. 今後の展望

大和びんリユース推進協議会として、今後奈良県内でのびんリユースを推進していく上で、事業計画を策定し、まずは奈良県内のびんリユースに関する実態調査から現在の状況を把握していきたいと考えている。

また平行して奈良県内で開催されるイベント等においてもびんリユースの取り組みを発信して参りたい。

#### 6. 全体総括

平成 24 年度にてリユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』を開発し、奈良県内を中心に約 55 店舗での普及を行っており、現在も拡大中である。本商品の取り組みにより、平成 25 年度では各情報媒体での取組紹介、生駒市が「第 15 回グリーン購入大賞優秀賞」の受賞、当団体では「リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞」の受賞等を受けており、取り組みが評価されつつある。

また大阪府や岡山県でも同様の取り組みが実施されつつあり、近畿圏を中心に新しいびんリユースの取り組みが、点から線へ繋がろうしている。

本事業では本年度、奈良県内におけるびんリユースの推進体制の構築が可能となり、平成 26 年度より取り組みのスピードを上げて参りたい。

本事業に関して多方面に渡る関係者の多大なる尽力に心より感謝を申し上げる。

やまと  
大和びんリユース推進協議会設立趣意書

## 設立趣意

## (びんのリユースの現状)

ガラスびんは飲料、酒類及び食品を始めとしてさまざまな用途で利用される品質保持性能に優れた容器であり、耐久性が高く再使用が可能な容器であることから容器包装廃棄物の排出抑制と温室効果ガス排出量の低減、循環型社会形成の観点からそのリユースの推進が期待されている。

我が国ではこの循環型社会形成のために3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進してきたが、リデュースとリユースについては、リサイクルよりも遅れをとっており、さらなる循環型社会の形成を目指すため、これを2Rと定め、その推進と普及が期待されている。

しかしながら、ライフスタイルの変化、流通構造の変化、商品の多品種化等を始めとする経済社会システムの変化の影響を受け、2Rのリユース分野であるびんのリユース量は減少の一途をたどっている。

## (びんのリユースは様々な主体が連携しないと成立しないシステム)

現状では、ビールびん、一升びん、牛乳びん等の既存のリユースシステムが弱体化しており、びんのリユースが存続しているのは業務用市場、宅配市場等に頼るところが大きい。

びんリユースシステムは、消費者、中身充填事業者、卸事業者、飲食店等びん飲料を提供する事業者、小売店、地方公共団体、NPO 団体(市民団体)、さらにびん商、回収容器供給者、ガラスびんメーカー等の様々な主体が協力・連携しないと成立・存続し得ないものであり、従来我が国では、これをひとつの「文化」として、存続・発展してきた。

しかしながら、このびんリユースシステムは現状のままでは崩壊しかねず、ひとたび崩壊するとその再生・復活には多大な時間と労力が必要となり、我が国が目指す循環型社会形成に大きな損失となる。

## (びんリユース拡大のための鍵)

これまでびんリユースの普及拡大に向けて様々な調査研究、実証実験等が行われてきたが、その結果からびんリユースの拡大のための鍵として見えてきたのは「地域単位のびんリユースシステムの構築」である。

具体的には、回収や洗びん、充填の設備等のコスト制約の中で、一定程度の広さをもった地域をベースとしてびんをリユースしていくシステムを構築し、点から線、線から面へ拡大していくことが有効である。

この取組を成功に導くためには、消費者、中身充填事業者、卸事業者、飲食店等びん飲料を提供する事業者、小売店、地方公共団体、NPO 団体(市民団体)、びん商、回収容器供給者、ガラスびん

んメーカー等の参加が得られる着眼点と発想に基づくものとなる必要がある。  
そして、消費者がびんリユースの重要性を認識し、それを受け入れるための情報発信と地域単位での取組実施が必要であり、消費者の行動概念を変化させることが求められる。

(本協議会が目指す地域単位でのびんリユース)

本協議会を設置する奈良県内では、既に平成 24 年度より NPO 団体「World Seed」が開発した“リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』”(以下、本商品)という奈良県特産の大和茶(やまとちゃ)を使用したリユースびん入り商品が開発・普及されており、奈良県内を中心とするホテル・旅館、飲食店で消費者への提供がなされている。また、地方公共団体においてもリユースびん入り商品において「奈良市」並びに「生駒市」が全国で初めて市として導入を表明し、公共施設内で開催される会議等で使用することにより、市として率先した環境配慮行動、当該地域住民へリユースの視覚的イメージの訴求が実現している。

本協議会では、本商品の取り組み事例をもとに、奈良県内における“地域単位でのびんリユース”をさらに推進していく上で、課題となる点やその解決方法等を多様な主体とともに議論し、情報を共有し、その認識を深め、必要な取り組みを実施することにより、“誰もが、びんリユースの重要性を認識し、生活行動(消費行動)のひとつにこれが組み込まれる”ことを将来像として目指すものである。

## 大和びんリユース推進協議会 会則

### [名称]

第1条 この会の名称は、「大和びんリユース推進協議会」(以下「本協議会」という。)とする。

### [目的]

第2条 本協議会は、奈良県内において、びんリユースの推進が容器包装廃棄物の排出抑制、温室効果ガス排出量の低減、地域経済の振興等に貢献できる可能性を広く内外に発信するとともに、自らもびんリユースを推進する取り組みを実施し、もって我が国の循環型社会形成に寄与するものである。

### [取組内容等]

第3条 前条の目的を達成するために次の取り組みを行う。

- (1) 当該地域において既に実施されているびんリユースの取り組みを基に、その「経験知」と「知識知」の蓄積を行い、さらなるびんリユースシステムの構築と拡大を図る。
- (2) びんリユースにおける、容器包装廃棄物の排出抑制と温室効果ガス排出量の低減、循環型社会形成への寄与の情報発信や広報。
- (3) びんリユースにおける地域経済への貢献調査と検討。
- (4) びんリユース促進における環境教育手法の検討。
- (5) その他座長が必要と判断する取り組み。

### [協議会の構成]

第4条 本協議会は、第2条に掲げる目的に賛同する構成員で構成する。

- (1) 必要に応じ、構成員以外の者をオブザーバーとして参加させることができる。
- (2) 構成員は、本協議会が開催する会議等に出席できない時、代理の者を指名して参加させることができる。

### [役員]

第5条 本協議会に次の役員を置く。

- (1) 座長 1名
- (2) 事務局長(会計兼任) 1名
- (3) 幹事 若干名(座長、事務局長(会計兼任)を含む。)
- (4) 会計監査 1名

- 2 座長は、本協議会を代表し業務を統括する。
- 3 事務局長(会計兼任)は、座長を補佐し、座長が事故あるときはその職務を代理する。また、本協議会の会計を管理する。
- 4 幹事は、本協議会の運営に当たる。
- 5 会計監査は、本協議会の会計事務を監査する。

#### [役員任期・報酬]

第6条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 役員は無報酬とする。

#### [役員選出]

第7条 本協議会の役員は、構成員の互選により選出し総会において承認を得る。

#### [会の組織]

第8条 本協議会の運営のために、総会と幹事会を置く。

#### [総会]

第9条 総会は構成員を以て構成する。

- 2 総会は、座長が招集し、事業年度ごとに1回以上開催する。
- 3 総会は、2分の1以上の構成員の出席(委任状を含む。)で成立する。
- 4 総会の議事は出席構成員の過半数をもって決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 5 やむを得ない事情のため総会に出席できない構成員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決することができる。
- 6 必要に応じて、臨時総会を開催できる。

#### [総会の議決事項]

第10条 総会は次に掲げる事項について議決する。

- (1) 会則の制定または改廃に関する事。
- (2) 役員選出に関する事。
- (3) 予算及び決算に関する事。
- (4) 事業計画及び事業報告に関する事。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、本協議会の運営に関する事。

[幹事会]

第11条 幹事会は、総会に次ぐ意思決定機関とし、第3条に定めた事業の運営と執行に当たる。  
2 必要に応じ随時開催する。

[会の運営費]

第12条 本協議会の運営費は、幹事会が別に定めるところよりこれを決定する。

[会計年度]

第13条 (会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

[入会]

第14条 本協議会に入会を希望する者は、別に定める入会申込書を座長に提出するものとする。

[退会]

第15条 本協議会を退会しようとする者は、別に定める退会届を座長に提出するものとする。

[事務局]

第16条 本協議会の事務を処理するため、事務局を奈良県内に置く。

[解散]

第17条 本協議会は、総会で構成員総数の4分の3以上の承認を得た議決により解散する。

[その他]

第18条 本会則に定めるものの他、本協議会に関して必要な事項は、幹事会に諮り、総会で議決する。

附則

本会則は、平成26年 月 日から施行する。

附則

本協議会の設立当初の役員は、第7条の規定にかかわらず、幹事会の定めるところとし、その任期は、第6条の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする

本報告書は、「平成 25 年度 環境省 びんリユースシステム構築に向けた実証事業報告書」として作成された。

平成 25 年度  
環境省 びんリユースシステム構築に向けた実証事業  
奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶飲料普及促進事業報告書

---

平成 26 年 3 月

発行 World Seed

住所 〒581-0003 大阪府八尾市本町 1 丁目 5 番地 10 号  
本町プラザ 301 号 岡見 方

---